



こんにちは!

市議員 井坂博文 です



連絡先/日本共産党北地区委員会：京都市北区紫野雲林院町 78 / 電話 432-3261 / FAX441-4968

「みんなが先生、みんなが生徒」の自治体学校

福岡市で開かれている第60回自治体学校に議員団から8人参加。今年のテーマは「地域・くらしに憲法をいかす自治体づくり」。いま安倍内閣による憲法破壊が進められている時、実にタイムリーな企画。

初日の記念対談のパネラーは、元京都府副知事で現在岡山県真庭市長の太田昇さん。真庭市は、地域産材を活用したバイオマス発電など地域にあるものを最大限に活かして付加価値をつける「里山資本主義」の先進自治体であり、「単なるスローガンではなく、憲法と地方自治を市民目線で大切にしている」と自然体

で実に分かりやすく話された。党議員団も二年前に視察に行ったが、さらに発展していることがよく分かった。太田市長は、さらに「改



めて全国をリードした蜷川革新府政の再評価が必要」と、経済政策、公害対策、清潔な府政運営などを挙げて話された。

山田知事の下で副知事を務めた人であるが、民主府政時代を経験された職員の発言として実に説得力あり、改めて「憲法を暮らしに生かす」地方自治体のあり方を今日的に考えるヒントになる対談だった。

二日目は分科会。「脱原発、気候変動対策とライフスタイル革命」に参加。大事な課題なのだが、マニアックなテーマなのか、参加者数は20人強と他の分科

連日の猛暑の中、熱中症とみられる症状で救急搬送される方が続出しており、京都市内の搬送人員は7月だけでもすでに705人(7月24日現在)で昨年の346人を大きく上回る2倍以上の状況にある。まさに「命に関わる危険な暑さ」となっている。気象庁は、今年の暑さは「災害」と異例

ここにも異常気象の影響が

の記者会見を行い、当面続く猛暑に厳重な警戒が必要として、無理由な外出は控

え、ためらわずに冷房を使用すること、水分や塩分のこまめな補給などを呼び掛けている。通常の熱中症対策にとられず、特別な対策が求められていることから、党議員団として京都市長と教育長に対して対応を緊急に求めた。詳しくは議員団のHPを見てください。



会と比べて少なめ。分科会でのふくしま復興共同センター代表委員の齋藤さん(県労連議長)のレポートに感銘を受けた。復興の課題の一つに「原発からの距離、放射線量、賠償額、避難する・しない、食べる・食べない、で持ち込まれた分断と対立の克服」を挙げ、分断を乗り越える唯一の方法は「互いの被害や考えの違いを認め合い連帯して、国と東電にその責任をとらせること!」と述べられた。

今宮神社が連続被害!

近所の今宮神社境内にある樹齢約200年という境内最長老のクロマツが迷走台風で倒れた。昨年10月台風の際には本殿裏の大木が倒れ、門前通りの大鳥居が傾いたばかり。

昨年の台風被害の際に、お見舞いと要望をお聞きした宮司さんをさっそく訪ねて重ねてお見舞いした。宮

司さんは「老衰が進み、治療をしていただけに残念だが、クロマツも自分の退き際を考えたのでしょう。しかし、高さから考えたら境内の建物屋根を直撃しても不思議でないのに、屋根とこま犬の間に上手く倒れてくれました」と言う。まさに「神がかり」。

さらに衝撃的なのは、昨台風を見る中で前倒しして撤去することに。いったん根元で切断し解体した上で保存し、寄附を募りながら再建立の方向で検討されるそう。地元のシンボルとして愛されている鳥居だ。京都市は「文化的価値がないので財政支援はできない」との姿勢だが、なんとかできないものか?

